

生活単元(音楽活動)学習指導案

令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時 〇〇教室
〇〇小学校 〇〇組(〇年生〇人、〇年生〇人)指導者 〇〇

1 単元名

生活単元(音楽活動)学習『ハモフラ』を演奏しよう

2 本時のねらい

〔学級全体〕この手段だけでしかできない、自分で音楽を演奏するという楽しみを味わう。特別支援学級として、活動を通して自己存在感・自己決定感・共感しあう態度を身に着ける。

〔個別〕

〇年 児童A、B、C (必要に応じて児童に合わせた個別のねらいを設定する)

〇年 児童A、B、C

3 展開(1/2時)

	時間	主な学習活動	支援及び留意点
導入	5分	・ハモフラを用いて演奏をしている『ミドリムシのうた』や『カラフルマインド』の動画を見て、ハモフラとはどんな楽器か考える。 ・ハモフラの写真の提示 ・今日のめあての提示 めあて:「ハモフラ」を演奏しよう	・知っている楽器名を挙げさせた後、「じゃあ、ハモフラって知ってる?」と尋ね手を上げさせてもよい。 ・動画を見ながら探させ、子どもの反応を拾う。二曲目に入ると集中力が続かないため、時折早送りする。
展開	35分	・『ハモフラセッション』を見て、演奏方法を確認する。 ・実物を指導者が装着し、音を鳴らす。 ・演奏したい子どもが手を挙げ、音を鳴らす。 ・『きらきら星』を皆で演奏する。ハモフラを持っていない人はエアで演奏する。 ・歌の1番で交代し、次の挙手者へ。 ・『空も飛べるはず』を演奏する。	・見た感覚・聞いた感覚・演奏した感覚を、言葉のやり取りを通じて、自分の考えや気持ちを用いて言えるようにする。 ・動きを取り入れた活動をすることで、多動傾向の特性のある子ども進んで学習に参加できるようにする。 ・エア演奏に疲れた場合、ハモフラを演奏しない子どもは、音楽に合うようにハモフラといっしょに歌や手拍子や拍手をする。必要に応じて支援員が指導を行う。
まとめ	5分	ハモフラを演奏した感想、演奏を聴いていた感想を伝え合う。	・『ゆるスポ楽器が紹介されているニュース』を見て、今後のハモフラの可能性を考えさせてもよい。

3 展開(2/2時)

	30分	お礼の手紙を書く。	子どもに、自分の言葉で気持ちや考えを表現させる。
--	-----	-----------	--------------------------

資料へのリンク

- 『ハモフラ』: <https://emonxmusic.wixsite.com/my-site/hamofura>
- 『開発者からみなさんへの挨拶』: <https://youtu.be/-n2hM9tIm0M>
- 『ミドリムシのうた』: <https://youtu.be/jcYcZJAqkrY>
- 『カラフルマインド』: https://youtu.be/HoTdWIS_BzY
- 『ハモフラセッション』: <https://youtu.be/LxynP8gle78>
- 『ゆるスポ楽器が紹介されているニュース』: <https://www.google.com/search?q=ゆるスポ楽器>

ハモフラ楽譜(印刷用/動画)

- 楽譜バック: https://drive.google.com/file/d/1-LjE3fUJBArh5B1jycV6lNK4_ZobbYO/view?usp=drive_link
- 『きらきら星』: <https://youtu.be/eB1c0Fuf6tw>, <https://youtu.be/gh7KjdZHKhM>
- 『空も飛べるはず』: https://drive.google.com/file/d/1I2GGHIECEAlamTQShTK2Jev8cePBZ4I/view?usp=share_link
- 『大きな古時計』: <https://youtu.be/DZF8b5vdFn8>
- 『夢をかねてドラえもん』: https://drive.google.com/file/d/1F7hRGiWqchFghnUVyaVbueEJ8wcDQtNA/view?usp=drive_link
- 『おどるボンボリン』: https://drive.google.com/file/d/1iRPdpXaRUJwDrXlq9DtOxX3wxZJuWW90/view?usp=share_link
- 『アイドル』: https://drive.google.com/file/d/1ivP862p4YelQTR3rOpao9ody8jN_3B9/view?usp=drive_link
- こちらに纏めて置いています。(https://drive.google.com/drive/folders/1oi-d9m8mjWt7labvLcGlXD_WrSDSazh1?usp=share_link)

ハモフラの有意点

- 誰でも演奏できるため、特別支援学級と通常学級の子どもと一緒に演奏できる。
- 練習すると上手くなるため、特に自信を失いがちな特別支援学級の子どもの向上心をはぐくむことができる。

ハモフラの使用例

- ・「ハモフラのじかん」を設定し、授業の合間に演奏する。
- ・通常学級の音楽の時間に、校歌や学習中の単元の曲を演奏する。特支学級の子どもも一緒に演奏できる。

実際の授業記録

令和5年 1月 公立小学校 特別支援学級(軽度知的障がい)
支援員の配置:無 3年4人 6年3人

☆1月18日

- ・『ミドリムシのうた』、『カラフルマインド』を見てハモフラはどれか当てさせる。
- 指導者「私の友達は機械を作るお仕事をしているんだけど、今回はみんなのために楽器を作ってくれたよ。その楽器はこの動画の中にうつっているんだけど、どれだと思う？探してみて！」
- 子どもは動画のゆるキャラに夢中。これ？これ？と尋ねるが、○○さんはどう思う？と話題を発展させる。『カラフルマインド』に入ると疲れが見えた。たくさんのゆる楽器が動画に登場している場面で『カラフルマインド』の動画を停止し、「この中に映ってるよ」とヒントを提供。
- ・どうやって演奏してた？ 子ども「なんか引っ張ってた」
- ・『ハモフラセッション』を見て演奏方法を確認。「この人が私の友達で、ハモフラを考えて作った人だよ！」
- ・大切に扱うよう伝える。「みんなも、自分で描いた絵や、図工の作品が壊れてしまったらいやだね。」
- 子ども「壊しちゃったら？」指導者「わざとじゃなければいいよ」
- ・『ゆるスポ楽器』エア練習 一回。

☆1月20～25

20日 ハミガキ時間の3分で『ゆるスポ楽器動画』(https://youtu.be/2o_W35ciUD4)視聴。

～25日 特別支援教室での学習の区切りがついたところで、「届いてもすぐ演奏できるように」授業の合間にエア練習。『ゆるスポ楽器動画』『きらきら星』。

- ・一回の練習時間は、3分が限界か。「腕が疲れたー」と言う。

☆1月26日 3時間目

- ・開発者の挨拶動画をみせる。「2つ約束があったね。覚えているかな？」
- ・特別支援学級の理科実験の班になろう！（6年＋3年ペアの班）
- ・指導者がつけ方と、壊さない工夫を説明。「両手で持ってね。」「①首を通して②ベルトをつけよう」
- ・「6年生がお手本ね。」6年に先に渡し、装着。黒いレバーをひねるよう言う。自由に音を出させる。
- ・きらきら星。2番まで演奏したら3年と交代。
- ・「疲れた人は、同じ班の人に譲ってあげてね。」大体2分ぐらいで疲れたーと口にする。
- ・授業開始30分後 難しい曲だけど、挑戦する？と聞く。『空も飛べるはず』を再生。のめりこむ子どもたち。一番で疲れて交代。
- ・「またやりたい！」じゃあ、明日ちゃんと勉強したらハモフラやろう。
- ・3年生は演奏後、疲れてマットに寝転ぶ。自分の番になると喜んでやってくる。

☆1月27日 5時間目

- ・演奏 ほぼ『空も飛べるはず』を演奏。「録画するよー」と言うのと張り切る。子ども「昨日より上手になったよ！」3年も6年も、疲れたーと言いながらも一曲演奏できた。一曲演奏したら交代。
- ・また、5時間目以外に3年と6年は、一方が通常学級で学習していて支援学級に不在の時に、支援学級で演奏した。3年5分。6年生は「空もとべるはず」一曲。6年「先生、月曜日も演奏したいです。できますか？」
- ・演奏で疲れた子どもや待っている子どもにお礼の手紙(絵日記)を書かせる。30分程度。

指導者(学級担任)の感想

歌を歌ったり、音楽を聴くことは大好きな子どもたち。しかし、音楽の授業は好きではないと言っていた。理由を聞くと「難しいから。」私の特別支援学級の子どもたちは、自分一人で音階がある楽器を演奏する能力はない。ジャンケンすらままならない震える手を握りしめ、同じクラスの子どもたちがトランペットなどの金管楽器やリコーダーを上手に演奏するのを歯痒そうに見ていた。皆が合奏する姿を見て疎外感を感じ、授業に耐えきれず教室を走り回り教室から追い出されたりしているのが実態だ。

しかし、この「ハモフラ」という楽器は、腕のポーズだけでハーモニーを演奏できる。さらに、ベルトで固定されているので多動傾向のある彼らがダンスをしても大丈夫だ。疲れやすい彼らが、お手本動画にくぎ付けになり、音に合わせて夢中で「合奏」していたのだ。さらに「先生、うまくなったよ！」と、自分の能力が向上したことに喜んでいった。多くの「できないこと」に苦しむ彼らが、自身の成長を喜んでいったのだ。

ハモフラのテーマは「すべての人に音楽の楽しみを」。音楽を通じて、排除されがちな子どもたちに自己存在感・自己決定感・共感しあう態度を育むことができるのがまさにこの「ハモフラ」である。

学校に一台、いや、クラスに一台(いえ、ぜひ三台！)この「ハモフラ」を配置してはどうか。製品化と学校への普及を強く望む。